

った。洗浄後、島津自記色彩計で表面反射率を測定し、洗浄効率を算出した。

3. 酵素が十分に存在する系において、普通洗剤では、加熱処理温度(40°C~120°C)が上昇するに従い、洗浄率は直線的に低下するが、酵素配合洗剤では100°C付近までは変化なく、それ以上の温度で低下した。

普通洗浄と浸漬洗浄では、両者共に普通洗剤より酵素配合洗剤の方が洗浄効果があることを認めた。

* 日本繊維製品消費科学会昭和45年年次大会発表。

B-38 酵素配合洗剤の効果について(第2報)

花王石鹼(株)家庭品研 掛川 貞夫
重弘 文子
○鶴岡 英樹

1. 既報*において、タンパク含有人工汚染布を用いて、酵素配合洗剤による洗浄効果について報告した。今回は加熱処理したタンパク含有人工汚染布によって洗浄挙動がどのように変化するか検討した。

2. タンパク含有人工汚染布は、モデル汚れとして固体、油性物質よりなる乾式人工汚染布をタマゴ水溶液に浸漬し、風乾後、所定の温度、時間で加熱処理した。洗剤は洗たく用洗剤配合組成、酵素(プロテアーゼ)はMaxatase 30万 du/g を用い、洗剤に対して1%になるように洗浄直前に加えた。洗浄試験は Terg-O-tometer 100 rpm を用い、40°C、10分洗浄、すすぎ5分、1回で行